

2022年10月4日

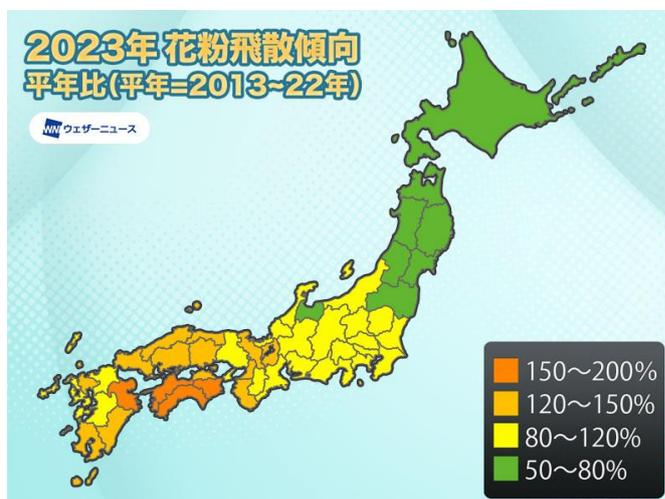
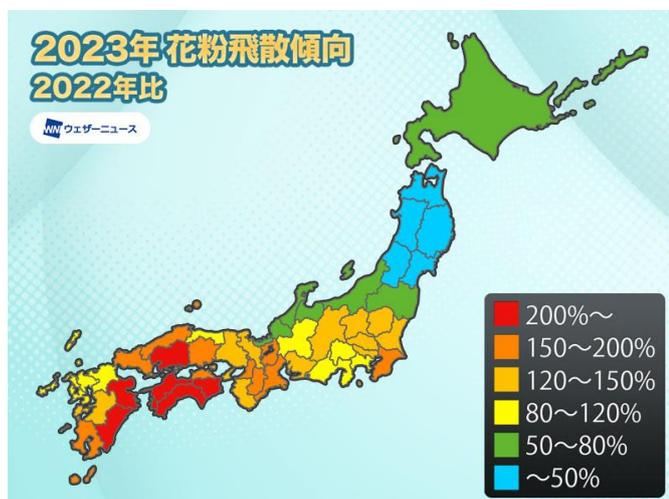
**2023年のスギ・ヒノキ花粉はどうか？ウエザーニュース「第一回花粉飛散傾向」を発表  
来春の花粉飛散量は関東から西で前年より増加傾向、北日本は減少  
～西日本を中心に雄花の生育に適した夏に 花粉の飛散が多い「表年」傾向で飛散量増～**

株式会社ウエザーニュース(本社:千葉市美浜区、代表取締役社長:草開 千仁)は、2023年春の花粉シーズンに向け、「第一回花粉飛散傾向」(スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ)を発表しました。2023年春の花粉の飛散量は、関東から西のエリアでは2022年よりも多くなる予想で、2022年比で3倍以上の飛散量になる地域もあります。一方、2022年に飛散量が多かった北日本や北陸エリアでは飛散量が減少し、2022年の50%を下回る地域もありそうです。飛散量が増えるエリアでは2022年よりも花粉症の症状が重くなるおそれがありますので、対策をしっかりと行ってください。

なお、次回の「第二回花粉飛散傾向」は、12月上旬の発表を予定しています。

本プレスリリースの素材のダウンロード	「第一回花粉飛散傾向」の一般向けサイト
ウェブ版プレスリリース「第一回花粉飛散傾向」 <a href="https://jp.weathernews.com/news/41628/">https://jp.weathernews.com/news/41628/</a>	ウエザーニュースウェブサイト「第一回花粉飛散傾向」 <a href="https://weathernews.jp/s/topics/202210/030135/">https://weathernews.jp/s/topics/202210/030135/</a>

#### ◆ 2023年「第一回花粉飛散傾向」



#### <来春の花粉飛散量の傾向:関東以西は前年を上回る予想>

2023年春の花粉飛散量は北日本や北陸で2022年より少なくなるものの、関東や東海、西日本では多くなる予想です。西日本では2022年の1.7倍程度で、3倍以上の飛散量になる地域もあります。一方、2022年に飛散量が多かった北日本や北陸エリアでは飛散量が減少し、2022年の50%を下回る地域もあると見えています。

平年比(2013～2022年の飛散量平均との比較)でも西日本はやや多く、北日本はやや少ない予想です。東日本は概ね平年並で、全国平均では約112%となる予想です。

## <飛散量予想の根拠:2022年夏の天候と年ごとの増減傾向>

花粉の飛散量予想は、主に前年の夏の天候と年ごとの飛散量の増減傾向を基に算出しています。2023年の飛散量予想の背景は以下の通りです。

### ～西日本は高温多照で雄花の生育に適した夏に～

前年の夏に十分な日照があり、気温が上がるほど花粉の発生源となる雄花の生育が活発になる傾向があります。よく晴れた暑い夏ほど光合成が盛んになるためです。

2022年6月は梅雨前線が本州の南の海上に停滞する日が多く、西・東日本を中心に日照時間が平年を上回りました。下旬になると太平洋高気圧が張り出して梅雨前線が北日本周辺まで北上し、西・東日本では記録的な猛暑となり、平均気温も高くなりました。7月に入ると西・東日本は低気圧や前線の影響を受ける日が多くなり、日照時間は平年並にとどまりました。一方、北陸や北日本では高気圧に覆われる日が多く、日照時間は平年を上回りました。暖かい空気に覆われる日が多く、平均気温は全国的に高く、特に北日本ではかなり高くなりました。8月は低気圧や前線、台風の影響を受け、北日本や東日本で曇りや雨の日が多くなりました。日照時間は平年を下回った一方、気温は平年並でした。西日本では日本海側で日照時間が少なかったものの、太平洋側を中心に晴れる日が多くなり、日照時間は平年並～平年より多くなりました。西日本では平均気温も平年を上回りました。

2022年夏の天候を総合すると、暖かい空気に覆われた日が多くなったため、平均気温は全国的に平年を上回りました。北日本では日照時間が平年をやや下回り、雄花の生長にはやや不向きな天候となりました。東日本の日照時間は概ね平年並でした。西日本では太平洋側を中心に日照時間が平年を上回り、雄花の生長には適した天候となりました。

### ～2023年は西日本を中心に花粉の飛散が多い「表年」に～

花粉の飛散量は周期的に増減し、花粉の飛散が多い期間と少ない期間が交互に訪れる傾向があります。飛散量が多い年を「表年」、少ない年を「裏年」と呼びます。エリアによって増減の周期は異なり、「表年」「裏年」も異なります。夏の天候の影響で「表年」「裏年」の区別が不明確になる年もあります。

2022年は北日本や北陸で飛散量が多くなり、特に東北北部では記録的な大量飛散となりました。その反動で2023年の飛散量は前年を下回り、「裏年」になると見込んでいます。一方、西日本では2022年の飛散量が前年を下回り、「裏年」となった地域が多くなりました。2023年は「表年」となり、飛散量が2022年の水準を上回る地域が多くなると予想しています。

◆ エリア別の 2023 年花粉飛散傾向

**北海道:**

**雄花の生育にやや不向きな夏 前年比で飛散量減**

2022 年の夏は暖かい空気に覆われる日が多く、気温は平年よりも高くなりました。ただ、前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなり、日照時間は平年を下回りました。2022 年の飛散量は前年を上回りました。

2023 年のシラカバ花粉の飛散量は平年の 70%、2022 年の 77%程度になる予想です。総飛散量が減少しても晴れて風の強い日には花粉が大量に飛散することがあるので、油断せずに対策をするようにしてください。



**東北北部:**

**記録的な大量飛散の反動 飛散量は前年比で大幅減**

2022 年の夏は暖かい空気に覆われる日が多く、気温は平年よりも高くなりました。ただ、前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなり、日照時間は平年をやや下回りました。2022 年は記録的な大量飛散となりましたが、その反動で 2023 年の飛散量は大幅に減少すると見ています。2023 年の飛散量は平年の 72%、2022 年の 29%程度になる予想です。総飛散量は大幅に減少するものの、晴れて風の強い日には花粉が大量に飛散することがあるので、油断せずに対策をするようにしてください。なお、東北北部ではスギ花粉の飛散が中心となり、ヒノキ花粉はほとんど飛散しません。



**東北南部:**

**多かった前シーズンの反動 前年比で飛散量は大幅減**

2022 年の夏は暖かい空気に覆われる日が多く、気温は平年よりも高くなりました。ただ、前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなり、日照時間は平年並～平年をやや下回りました。2022 年の花粉飛散量は前年を上回りました。

2023 年の飛散量は 2022 年を大きく下回ると見ています。2023 年の飛散量は平年の 71%、2022 年の 52%程度になる予想です。総飛散量は減少するものの、晴れて風の強い日には花粉が大量に飛散することがあるので、油断せずに対策をするようにしてください。なお、東北南部ではスギ花粉の飛散が中心となり、ヒノキ花粉の飛散は比較的少ない傾向にあります。



**関東・山梨:**
**雄花の生育に適した夏 前年比で飛散量増**

2022年の夏は暖かい空気に覆われる日が多く、気温は平年よりもかなり高くなりました。一方、日照時間は概ね平年並でした。2022年の花粉の飛散量は前年と概ね同様の水準でした。2023年の花粉飛散量は平年の111%、2022年の128%程度になる予想です。2022年よりも飛散量がやや増えて花粉症の症状が重くなる可能性があります。晴れて風の強い日には花粉が大量に飛散することもあるので、早めに対策をするようにしてください。


**北陸・長野:**
**多かった前シーズンの反動 前年比で飛散量減**

2022年の夏は暖かい空気に覆われる日が多く、気温は平年よりもかなり高くなりました。一方、日照時間は平年並でした。2022年の花粉飛散量は北陸エリアを中心に前年を上回りました。2023年の飛散量は北陸エリアを中心に2022年を下回ると見えています。2023年の飛散量は平年の97%、2022年の82%程度。ただ長野県では2022年を上回る飛散量となる予想です。北陸エリアでは総飛散量が減少するものの、晴れて風の強い日には花粉が大量に飛散することがあるので、油断せずに対策をするようにしてください。なお、北陸エリアではスギ花粉の飛散が中心となり、ヒノキ花粉の飛散は比較的少ない傾向にあります。


**東海:**
**雄花の生育に適した夏 飛散量はほぼ前年並**

2022年の夏は暖かい空気に覆われる日が多く、気温は平年よりも高くなりました。一方、日照時間は概ね平年並でした。2022年の花粉の飛散量は前年より減少した三重県を除いて概ね前年と同様の水準でした。2023年春の花粉飛散量は平年の104%、2022年の115%程度と見えています。ただ三重県では2022年を大幅に上回る飛散量となる予想です。2022年よりも飛散量が増えて花粉症の症状が重くなる可能性があります。晴れて風の強い日には花粉が大量に飛散することもあるので、早めに対策をするようにしてください。



**近畿:**
**雄花の生育に適した夏「表年」傾向で飛散量は大幅増**

2022年の夏は暖かい空気に覆われる日が多く、気温は平年よりもかなり高くなりました。一方、日照時間は概ね平年並でした。2022年の飛散量は前年を下回りました。2023年春の花粉飛散量は平年の122%、2022年の157%程度になる予想で、一部では2022年に比べて飛散量が2倍近くに増える地域もあります。飛散量が大幅に増えて花粉症の症状が重くなる可能性があります。晴れて風の強い日には花粉が大量に飛散することもあるので、早めに対策をするようにしてください。


**中国・四国:**
**雄花の生育に適した夏「表年」傾向で飛散量は大幅増**

2022年の夏は暖かい空気に覆われる日が多く、気温は平年よりもかなり高くなりました。一方、日照時間は概ね平年並でした。2022年の飛散量は前年を下回りました。2023年春の花粉飛散量は平年の151%、2022年の186%程度になる予想で、一部では2022年に比べて飛散量が3倍近くに増える地域もあります。飛散量が大幅に増えて花粉症の症状が重くなる可能性があります。晴れて風の強い日には花粉が大量に飛散することもあるので、早めに対策をするようにしてください。


**九州:**
**雄花の生育に適した夏「表年」傾向で飛散量は大幅増**

2022年の夏は暖かい空気に覆われる日が多く、気温は平年よりもかなり高くなりました。また高気圧に覆われて晴れる日が多く、日照時間は平年より多くなりました。2022年の飛散量は北部ではほぼ前年並でしたが、南部を中心に前年を下回りました。2023年春の花粉飛散量は平年の132%、2022年の160%程度になる予想で、南部では2022年に比べて飛散量が3倍超に増える地域もあります。飛散量が大幅に増えて花粉症の症状が重くなる可能性があります。晴れて風の強い日には花粉が大量に飛散することもあるので、早めに対策をするようにしてください。



**◆ 都道府県別の2023年花粉飛散傾向**

エリア	都道府県	花粉飛散量 (2022年比:%)	花粉飛散量 (平年比:%)
北海道	北海道	77	70
東北北部	青森県	28	71
	岩手県	33	71
	秋田県	29	74
東北南部	宮城県	48	64
	山形県	46	75
	福島県	61	73
関東・山梨	茨城県	121	113
	栃木県	139	117
	群馬県	141	113
	埼玉県	127	114
	千葉県	155	113
	東京都	129	118
	神奈川県	103	110
	山梨県	119	89
北陸・長野	長野県	123	114
	新潟県	60	83
	富山県	70	78
	石川県	80	106
	福井県	75	97
東海	静岡県	96	102
	愛知県	125	110
	岐阜県	110	109
	三重県	154	98
近畿	滋賀県	185	139
	京都府	130	121
	大阪府	195	127
	兵庫県	130	115
	奈良県	175	105
	和歌山県	149	124
中国・四国	岡山県	164	131
	広島県	223	142
	鳥取県	96	125
	島根県	169	149
	山口県	162	146
	徳島県	277	157
	香川県	165	144
	愛媛県	225	170
	高知県	280	191
九州	福岡県	101	116
	佐賀県	115	127
	長崎県	116	118
	大分県	273	159
	熊本県	136	119
	宮崎県	358	147
	鹿児島県	187	130
全国		108	112

- ※ 平年:天候の平年は1991～2020年の過去30年平均、花粉飛散量の平年は2013～2022年の過去10年平均
- ※ 飛散量:花粉観測機「ポールンロボ」が観測すると想定される花粉数。過去のポールンロボの観測データをもとに予想を算出

◆ **参考:ウェザーニュースの花粉飛散傾向と観測網について**

ウェザーニュースでは、全国のウェザーニュースアプリのユーザーと花粉の雄花の生育状況を調査する「雄花調査」の結果、これまで「花粉プロジェクト」で蓄積してきた花粉の観測データ、年ごとの飛散量傾向、今夏の天候をもとに来シーズンの花粉飛散傾向を発表しています。なお、「第二回花粉飛散傾向」は、飛散開始時期や飛散ピークについてまとめ、12月上旬に発表予定です。

ウェザーニュースの「花粉プロジェクト」は、花粉症の方々の役に立ちたい！という想いで、2005年から実施しているユーザー参加型の取り組みです。全国のご家庭や企業などに、独自開発した花粉観測機「ポールンロボ」を約1,000台設置し、空気中に含まれる花粉をリアルタイムに自動観測します。

ウェザーニュースは、日本最大級の花粉観測網とこれまでの蓄積データを活かし、予報精度向上を目指すと共に、アプリの利便性を高め、花粉症の方が少しでも楽に過ごせるようサポートしていきます。



花粉観測機「ポールンロボ」設置イメージ